

奈良国立大学機構 奈良教育大学及び奈良女子大学における研究データの管理、利活用に関するポリシー

(目的)

奈良教育大学はその目的として、「学芸の理論とその応用とを教授研究し、高い知性と豊かな教養とを備えた人材、特に有能な教育者を育てるとともに、この地方に特色のある文化の向上を図ること」を掲げている。

奈良女子大学はその基本理念として、『「高度な基礎研究と学際研究の追求」と「開かれた大学—国際交流の推進と地域・社会への貢献—」』を、また、研究目標として「学問研究の自由のもとに真理を探究し、長期的視点に立った研究を通じて社会・文化の発展に寄与することを目指す。研究活動を通じて生み出した知的成果をもとに、知の拠点を形成するとともに、その知的成果を社会に向かって発信する」ことを掲げている。

以上を鑑み、研究データは両大学の目的／基本理念・研究目標の実現に資する重要な資源であるとの認識の下、多様な研究データを管理・保存することによる知の蓄積とその蓄積された研究データの利活用の推進に資するため、両大学における研究データの管理、利活用に関する基本方針を策定する。

(研究データの定義)

本ポリシーが対象とする研究データとは、大学の研究活動を通じて収集又は生成されたデータであり、デジタル・非デジタルを問わない。

(研究データの管理・保存)

研究者は、収集又は生成した研究データの価値を守るため、法令、奈良国立大学機構及び両大学の規程その他これに準ずるものに加え、それぞれの研究分野における法的小よび倫理的要件（以下「法令や関係する学内外の規則等」という。）に従い、研究データを適切に管理・保存する。

(研究データの公開・共有と利活用)

研究者は、収集又は生成した研究データが、今後の学術や社会の発展に貢献する知の基盤の一つであるとの認識に基づき、個々の研究者の判断により、可能な限りそれを公開し、それらの利活用を促進する。ただし、法令や関係する学内外の規則等で制限されているものは除かれる。

(機構・大学の責務)

本機構・両大学は、研究データの保存・管理及び利活用を支援する環境の整備を推進する。

(その他)

本ポリシーは、社会や学問分野における状況の変化に応じて適宜見直すものとする。